

干潟観察会の記録

参加者：おおみち学童クラブ・第2 おおみち学童クラブ

実施日：令和4年8月15日（月）

天 気：はれ

講 師：藤田 喜久 先生、佐藤 寛之 先生

今日は2つの学童クラブさんが参加してくれたので、おおみち学童クラブさんは佐藤先生と、第2 おおみち学童クラブさんは藤田先生と干潟に出かけました。

浜に降りると、さっそくツノメガニがお出迎え。その後も、毛むくじらのケブカガニやミナミベニツケモドキなどのカニたちや、巻貝のハナビラダカラや二枚貝のヤエヤマスダレ、沖縄の赤瓦のような模様が特徴のカワラガイを見つけました。手に乗せて観察したイソアワモチの仲間は、実は殻をもたない貝の仲間です。そして、巻貝だと思って採った貝の中にはヤドカリがいて、脚が出てきて手の上を歩きだしました。

いつも海になっているところの潮が引くと、こんなにいろいろな種類の生き物が見つけれられるのかとおどろかされます。
(2 ページ目に続く)



今日は天気がいいので、水分をしっかりとりながら、どんどん歩いていきます。

少し進むと、足首まで水があるところまで来ました。先ほどまでとは環境が違うため、違う生き物に出会えます。

きれいな青色の脚のカニは、泳ぐのが得意なタイワンガザミのオスの脱皮殻たっぴがらです。中身がないにもかかわらず、生きていたかのようにそのままの姿なので、みんなおどろいていました。また、生きていた時は縦向きに地面に刺さっている大きな二枚貝のハボウキガイの仲間の貝殻も見つけ、みんなで観察しました。

岩をひっくり返すと、まだまだいろいろな生き物が隠れています。

今日は、絶滅危惧種ぜつめつきくしゅでもあり、とっても珍しい、ヤマトウシオグモを見つけることができました。ヤマトウシオグモは海にすんでいるクモですが、泳ぐわけではありません。普段は海になっている場所の、岩の裏のくぼみなどに網を張ってすんでいます。

戻る途中に、今度は色とりどりのシオマネキを見つめました。ルリマダラシオマネキ、オキナワハクセンシオマネキ、ヒメシオマネキの3種です。それぞれ、色や模様もようが違いますが、オスはみんな片方のハサミが大きいのが特徴です。

今日は二手に分かれて観察会をしました。どちらもたくさんの生き物にふれることができました。また、とても珍しい生き物も見つけることができ、ラッキーでした。



海にいるクモのヤマトウシオグモ！

タイワンガザミの脱皮殻

ルリマダラシオマネキ

オキナワハクセンシオマネキ

色とりどりのシオマネキたち

コサギ